



戸張道也

多摩川のほほえみ

もくじ

多摩川点景 吉田恵一

多摩川畔	6
大師橋	6
瓦斯橋	7
丸子橋	7
二子橋	8
多摩水道橋	8
宿河原堰堤	9
調布取水堰	9
渡し船	10
東海道新幹線	10
多摩川台公園	11
高津の町並み	12
兵庫島	13
河川敷ゴルフ場	14
ゴルフの練習	14
サイクルスポーツ	15
落書	15
バーベキュー	16
市民マラソン	16
漁	17
鮎釣り	17
多摩川の黎明	18, 19
雪化粧	19
野鳥	20
カルガモ	20
ユリカモメ	21
カワウ	21
ヒドリガモ	22
雀	22

鷺	23
七草	24
クコ	24
オオイヌノフグリ	25
ユキヤナギ	25
チガヤ	26
ヘラオオバコ	26
ヤブカンゾウ	27
ヒメジオン	27
くるみの木	28
オオマツヨイグサ	28
曼珠沙華	29
キクイモの花	29
クズ	30
コスモス	30
スズメウリ	31
ススキ	31
ミゾソバ	32
その他の写真	32, 33, 34, 35
筆者紹介	36
ロータリークラブ	36

墨の饗宴

大貫蘆汀	のぶどう	38
	蔓梅もどき	39
	野菊	40
	マーガレット	40
	イギリスの田舎家	41
岡崎富貴	アメリカフヨウ	42
	竹の子	43

	しゃくなげ	44
	山百合	45
倉上艸羊	フォックスフェイス	45
	落陽	46
	ほおづき	47
	とまどい	48
	陽だまり	49
鈴木紅祥	群翔	49
	鉄線花	50
	カナダ旅情	51
	烏瓜	52
	蒲	52
	毛蟹	53
田淵翠羊	ひょうたん	54
	ボタン	55
	鶏頭	55
	いちご	56
	岬の春	57
恒川輝草	飛瀑	58
	ハツ手	59
	浅春	59
	杷楡	60
	薫風	61
戸張桂華	ニヶ領用水	62
	芙蓉	63
	街角	63
	壺とフリーズ	64
	ぶどう	64
	木彫	65
	瀧聲	65

戸張碩山	冬の海	66
	響き	67
	湯上り	68
	再会	68
	パンジー	69
	ほほえみ	69
八木紫翠	古代米	70
	富良野	71
	椿	72
	しょうが	73
ミニ水墨画廊「墨象」		74

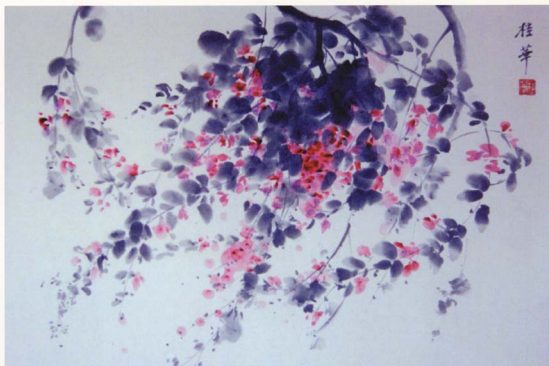
読書断片辞書

魚の見た夢	76
日経流通 情報テラス	77
日本流通新聞 マーケティング	78
ウォーレン・パフェット	79
ウォーレン・パフェット	80
天文学と文学のあいだ	81
アサヒカメラ	82
生命の暗号(2)	83
美を脳から考える	84
想い草	85
明るい寂寥	86
風に吹かれて山頭火	87
爪邑ノ雨	88
飯島晴子読本	89

ロータリークラブからの贈り物	90
----------------------	----

多摩川のほほえみ

戸張道也



ISBN4-924935-15-8 C0007 ¥1500E

表紙	戸張桂華画	萩（上）
裏表紙	吉田恵一撮影	多摩川縁に咲くキクイモの花（下）
扉写真	吉田恵一撮影	多摩川河川敷を彩るコスモス

多摩川点景

吉田恵一



川崎西ロータリークラブ会報「たまがわ」に掲載したものを再編集しました。

[目次に戻る](#)



朝靄の川面



大師橋



海より15km地点の多摩川畔



羽田空港と多摩川河口

多摩川畔

海より15km地点の多摩川畔。多摩川は全長約123km。多摩川の多摩は谷間の意とか…。下流部を六郷川というのは、中世の頃北岸（東京側）に六つの郷（村）があった為といわれている。

（平成12年7月21日掲載）

大師橋

大師橋、全長550m。

川崎市大師河原と大田区羽田を結ぶ橋。現在 期工事が進行中。平成17年度完成すると上下線6車線となる。

「斜張橋」という特殊な橋の造形美がとにかく素晴らしい。

（瓦斯橋橋史より）

（平成13年6月22日掲載）



瓦斯橋



丸子橋

瓦斯橋

瓦斯橋（ガス橋）全長387m。

昭和4年“平間の渡船”の地に東京瓦斯㈱が輸送管を架した時、木造人道橋を巡視用に並設したが、交通量激増と車両輸送の緊急を迎え、地元の有志相図り、新橋建設期成同盟を結成、昭和35年、今の瓦斯橋が完成。

（平成13年3月9日掲載）

丸子橋

丸子橋、全長405m。

空はもう秋。

昭和9年に車道2車線と歩道の橋梁として架設されたが、老朽化と交通量の増大に対応する為、車道4車線と歩道の新橋に架替中（平成13年度完成予定）。

川崎とどろきRCのパナーの図案でもある。

（平成12年9月8日掲載）



二子橋



多摩水道橋

二子橋

二子橋、全長440m。

大正12年9月1日の関東大震災の後、救援復興資材の輸送の為に、多摩川への架橋が不可欠となり、東京府、神奈川県、高津村、玉川電気鉄道㈱の四者四分の一負担の上、総工費36万円で大正14年竣工した。

（鈴木 穆氏著「高津物語」より）

（平成12年8月18日掲載）

多摩水道橋

全長359mの多摩水道橋。

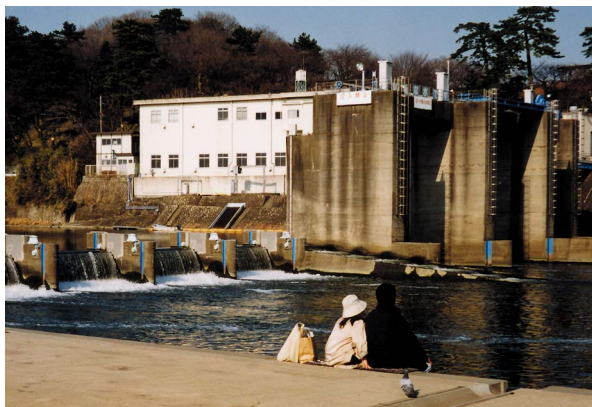
東京都狛江市和泉と神奈川県川崎市登戸を結ぶ曲線美豊かな橋。

橋本体に直径1.8mの水道管が通っている。

（平成12年12月8日掲載）



宿河原堰堤



調布取水堰(田園調布)

宿河原堰堤

多摩川の水を二ヶ領用水に導く宿河原堰堤。
この堰の管理所の一部が二ヶ領せせらぎ館となり、市民が日常的に川に親しめるような展示・教育活動と共に市民が自らそれに参画するように期待されている。

(平成13年5月11日掲載)

調布取水堰

丸子橋より上流50mで撮影。
この堰で取水された水は工業用水となる。この堰には閘門という船の出入り出来る門や、魚が通れる魚道があるのが特徴とか。
若人の格好の散策場所でもある。

(平成13年4月6日掲載)



今も利用されている渡し船



多摩川を渡る東海道新幹線

渡し船

多摩川に今尚残る渡し船。

大正時代中期迄、河口より青梅の神代橋迄の間には六郷橋しかなく、39ヵ所も渡し場があったとか。野毛の渡しがあった所でゴルフ場へ行く人の為の渡し船が現在も東京と川崎を往復している。

(平成13年3月2日掲載)

東海道新幹線

多摩川に快音を残して渡る東海道新幹線。

東京と川崎の間を流れる多摩川には多くの鉄道が走る。京浜急行、東海道線、横須賀線、東海道新幹線、東急の東横線と田園都市線、小田急線、京王線等々。

(平成13年4月27日掲載)



多摩川台公園



チカラシバの群落



海より14km付近の多摩川

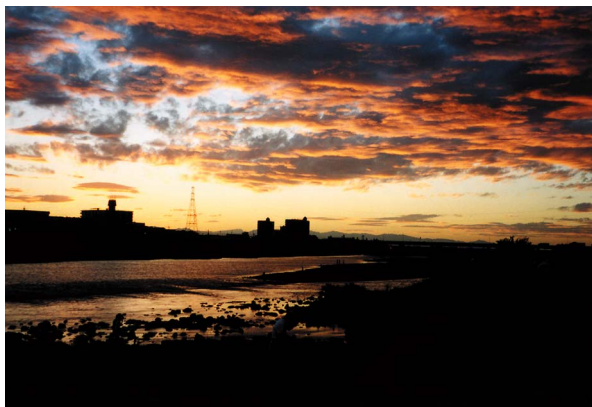
多摩川台公園

多摩川台公園より多摩川を眺める。
 多摩川台公園（世田谷区）は古墳が沢山ある丘状の公園で、野鳥も多く桜をはじめ木々が多い。展望台から見る多摩川の流れは絶景也。
 ここは多摩川八景の一つ。

（平成13年6月1日掲載）



対岸から眺める高津の町並み



夕闇が迫る高津の町並み



新二子橋下。群れるカモメ

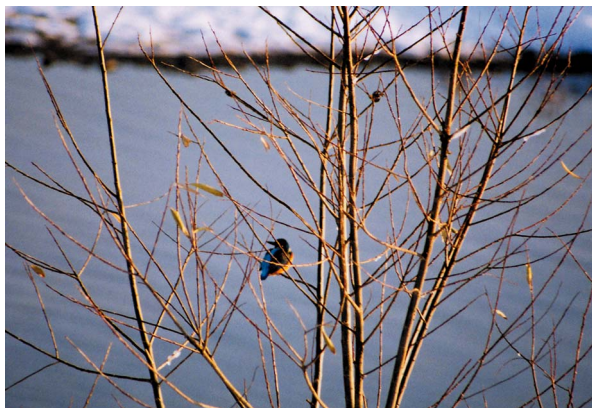
高津の町並み

多摩川・二子橋辺より高津地区を眺めると町並みの背後に多摩の横山が、そして遠くに丹沢山塊が望まれる。

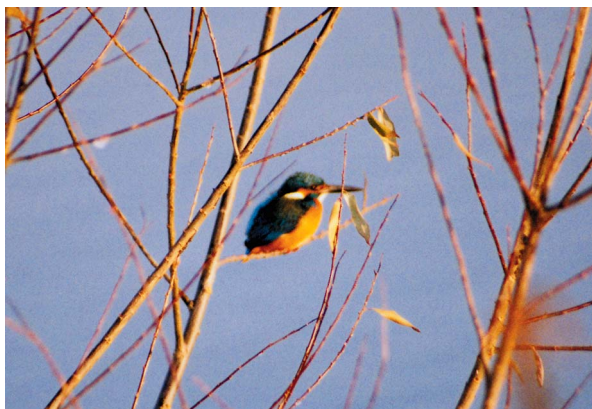
(平成12年12月15日掲載)



兵庫島



多摩川辺りのカワセミ



鮮やかな色が特徴。兵庫島辺りでよく見かける

兵庫島

多摩川に浮かぶ兵庫島。

その昔、南北朝の頃、新田義貞の子義興が兵を挙げたが矢ノ口辺で敗れ、その家来、由良兵庫助の骸がこの島に流れつきこの名がついたとか。

(平成12年12月22日掲載)



河川敷ゴルフ場



ゴルフ練習場

河川敷ゴルフ場

多摩川河川敷でゴルフを楽しむ人達。
砂利乱掘防止の意味を含めて、昭和10年、大田区
六郷と川崎市小向に河川敷ゴルフ場ができたのが
はじまりとか。戦争中は農耕地に姿をかえたが、
戦後復活、今盛ん。

(平成12年10月6日掲載)

ゴルフの練習

多摩川畔でゴルフの練習をする人達。
河原を利用した打ちっぱなしの練習所が何ヵ所か
ある。

日曜祭日には多くの男女が練習に余念がない。

(平成13年6月8日掲載)



BMX(バイスィクル・モトクロス)を楽しむ若者



第三京浜の橋脚に描かれた落書

サイクルスポーツ

多摩川の河原でサイクルスポーツを楽しむ若人達。若者はどこでも工夫して自分達の世界を作るようだ。

(平成13年4月20日掲載)

落書

多摩川には沢山の橋がかかっていますが、その橋を支える橋脚の壁には、数々の作品(?)が描かれている。何時誰が描いているのか? 何を訴えているのか? 意味不明のものが多い。

写真は第三京浜の橋脚の壁面。

(平成13年3月16日掲載)



バーベキューを楽しむ人達



市民マラソン

バーベキュー

多摩川河原でバーベキューを楽しむ人達。
毎週末は水あそびや焼肉パーティーをする家族づれや若者達で賑わう二子橋下。

(平成12年8月4日掲載)

市民マラソン

多摩川河川敷をひた走るマラソンの人達。
今年も市民マラソンが実施され650人余りが参加した。

(平成12年12月1日掲載)



河岸に繋がれた漁船



二子橋際で鮎を釣る人

漁

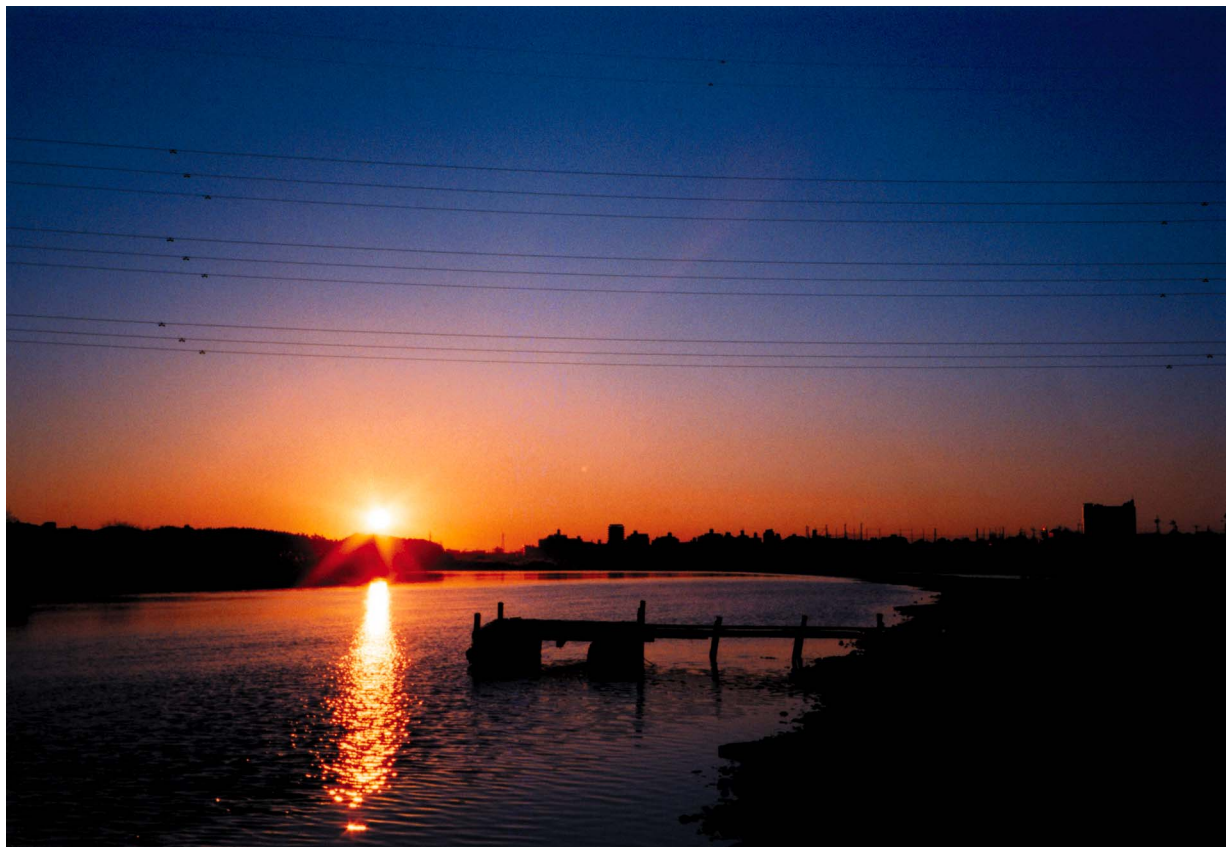
多摩川の河口近くで漁をする人がいるという。
多摩川も海の近くになると魚や貝が採れるとのこと。
ハゼ・うなぎ・ぼら・石蟹・あさり・しじみが獲物。

(平成13年5月18日掲載)

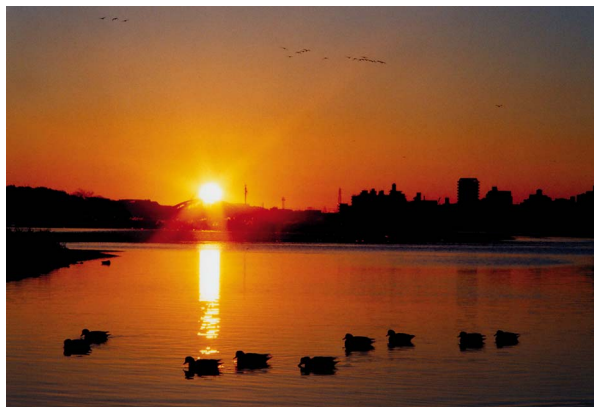
鮎釣り

多摩川で鮎を釣る人、真夏でも涼しげだ。二子橋際。橋の上の車の列を横目に、川の瀬で竿を振るのも又一興、
ころがし釣りか？ 今年は鮎が豊漁だという。

(平成12年9月1日掲載)



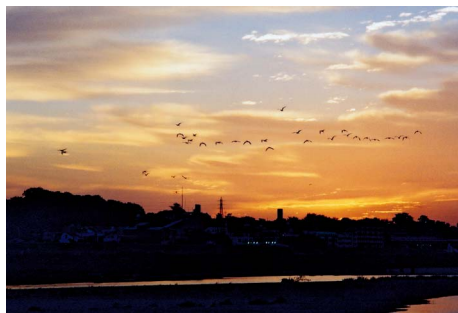
2001(平成13)年の初日の出



夜明けとカモ



雪化粧した川面



朝だ、朝だよと鳥が飛び立つ



雪の朝の日の出

多摩川の黎明

謹賀新世紀。

夜の帷から21世紀の太陽が昇る。

荘厳な感じの夜明け。

1月1日の東京の日の出は午前6時51分でした。

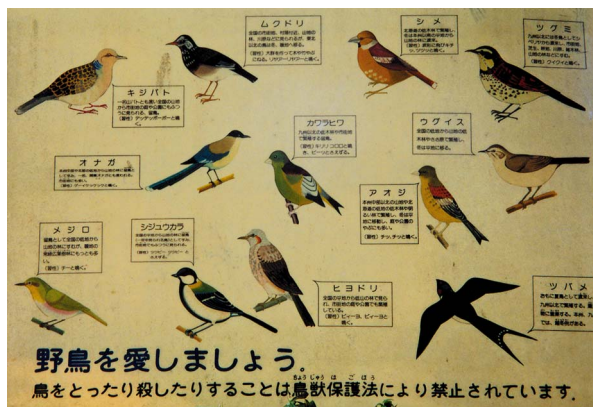
(平成13年1月5日掲載)

雪化粧

多摩川の雪化粧。夜明け時、川面に霞が煙の如くに立つ。

今冬の寒さは例年になく厳しい。昨夏の暑さと共にメリハリのある昨今の気候だが、冬来たりなば春遠からじ。

(平成13年1月26日掲載)



野鳥愛護のパネル



川辺で遊ぶカルガモ

野鳥

多摩川には一年中、野鳥が飛び交っている。
マガモ・カルガモ・コアジサシ・オオヨシキリ・
ヒバリ・ヒヨドリ・コミミズク・カワセミ・ユリ
カモメ・イソシギ・カウウ・キジ・ダイサギ・コ
サギ等々。

(平成13年5月25日掲載)

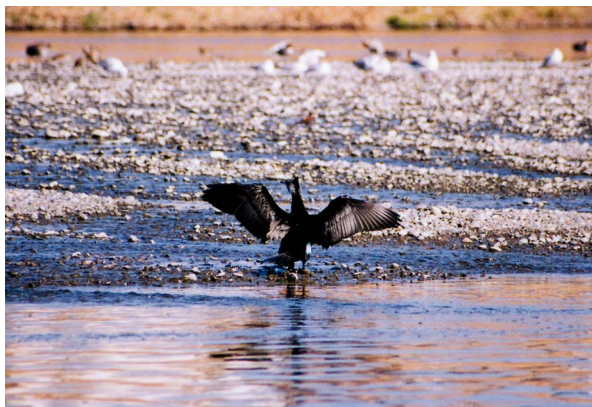
カルガモ

多摩川の水辺にあそぶカルガモ。
嘴は黄色いが成鳥。
空が青くすみわたり、水が冷たくなると多摩川に
も、沢山の水鳥がやってきます。
海より23km地点にて撮影。

(平成12年10月20日掲載)



群をなすユリカモメ



羽を干すカワウ



羽を休めるカモメ

ユリカモメ

多摩川の流れの中や土手に飛び交う冬鳥、ユリカモメ。この季節、多摩川には沢山のユリカモメが群れをなしている。白百合の様に美しい鴬と言うのが語源とか。

ユーラシア北部よりの渡来鳥（チドリ目・カモメ科）。

（平成13年3月30日掲載）

カワウ

多摩川辺りで羽を干すカワウ（ペリカン目・ウ科）。

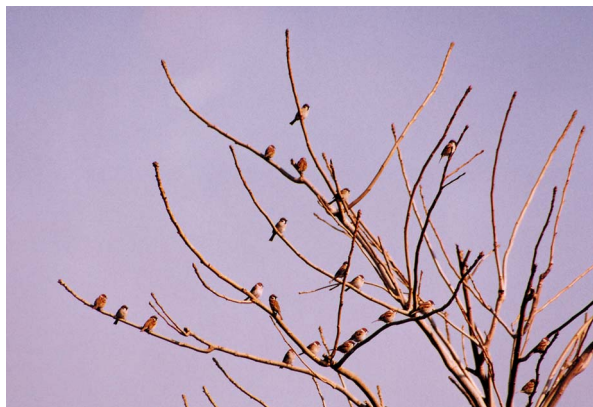
江戸時代、二子でからうかい従鴉飼が行われていた。一人の鴉使いが二羽の鴉を使い、川の中を歩きながら鮎を捕まえる漁法。

明治の中頃、観光用に復活したという。

（平成13年2月23日掲載）



ヒドリガモ



スズメ

ヒドリガモ

多摩川に日脚が伸びて春立つ季節となりました。
余寒の水面を気持ちよさそうに泳ぎ回るヒドリガモ（ガンカモ科、全長48cm、ユーラシア北部よりの渡鳥）。

（平成13年2月9日掲載）

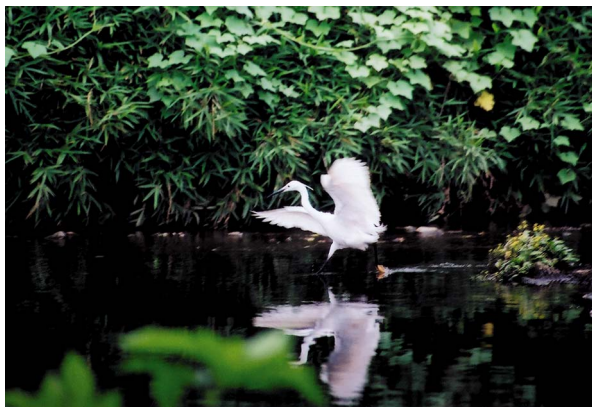
雀

早春。川辺はまだまだ寒い。
羽を膨らませて春を待つ雀の群れ（スズメ目・ハタオリドリ科）。

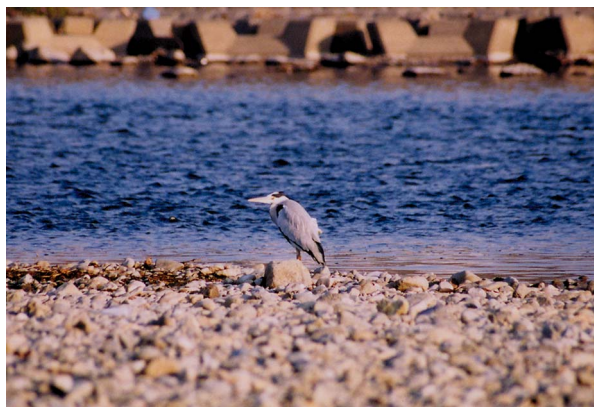
（平成13年2月16日掲載）



浅瀬に立つコサギ(左)とダイサギ(右)



羽ばたくコサギ



淋しそうなゴイサギ



鷺

多摩川の水辺に憩う鷺(コウノトリ目サギ科)。いつも浅瀬で小魚を狙う。飛ぶ時は首を縮めて飛ぶ。

(平成13年1月19日掲載)



春の七草の一つ、ハコベ



ルビーのように美しいクコの実

七草

多摩川の枯野の裾に青々と元気な繁萋（ハコベラ）

芹（セリ） 薺（ナツナ） 御形（ゴギョウ） 佛の座（ホトケノザ） 菰（スズナ） 蘿蔔（スズシロ）と共に春の七草の一つ（ナデシコ科、食用となる）

（平成13年1月12日掲載）

クコ

寒風の中、ルビーのような実をつけるクコ。

漢名は枸杞（ナス科）1～2mのかん木で若葉はゴウチイお茶に、実は乾燥させてクコ酒に、強壮剤になるとか。

（平成13年2月2日掲載）



春一番に咲くオオイヌノフグリ

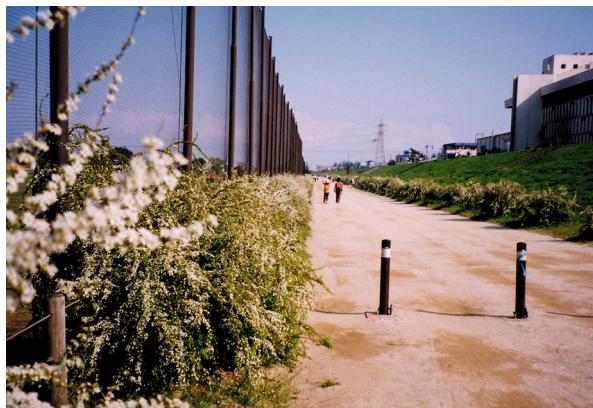
オオイヌノフグリ

春一番の風の中に咲くオオイヌノフグリ（ゴマノハグサ科クワガタソウ属）。

この花は陽だまりのどこにでも空色のジュータンを広げたように咲く。良く見ると星が瞬いているようだ。春到来を告げる花でもある。

学名ペロニカ・ペルシカ。帰化植物。

（平成13年3月23日掲載）



雪が降り積もったように咲くユキヤナギ

ユキヤナギ

多摩川のマラソン道に咲き乱れるユキヤナギ（バラ科）。コース両側に数千本の雪柳（別名、小米花）が植えられている。見事に咲いた無数の小花は雪が積もったよう。

中国名「噴雪花」。

花言葉……愛らしさ。

（平成13年4月13日掲載）



群生するチガヤ



ヘラオオバコ

チガヤ

土手に密生するチガヤ（イネ科・多年草）。秋のススキに似るが背は低い。初夏に穂を出す。若い花の穂はツバナと呼ばれ食用に、根は薬用となるという。昔、火打ち石より火を移しとる火口（ほくち）として利用された。

（平成13年6月15日掲載）

ヘラオオバコ

川辺に生えるヘラオオバコ（オオバコ科）。高さ50cm位。中形の多年草。ヨーロッパ原産の帰化植物。初夏より秋にかけて草原、河原に咲く。

（平成13年6月29日掲載）



初夏の河原を彩るヤブカンゾウ



可憐なヒメジオン

ヤブカンゾウ

二子橋の下流1kmで撮影した^{やぶかんぞう}菰萱草の群落。
初夏の濃緑の土手に、炎を燃やす如く八重に咲くヤブカンゾウ。色鮮やかな豪華な花で目を楽しませてくれる。根は漢方薬に、新芽は食用になり天ぷらにすると格別な味という。中国原産（ユリ科ワスレグサ属）。

（平成13年7月6日掲載）

ヒメジオン

河原に咲くヒメジオン（キク科）。
6～10月にかけて河原のどこでも見られる。北米原産の帰化植物で越年生。白い花で良く見ると可憐で美しい。

（平成12年7月28日掲載）



実をつけた胡桃の木



月のように夜咲くオオマツヨイグサ

くるみの木

多摩川の河原のあちこちに生えている“くるみの木”。洪水の際に上流の山から実が流れてくるのでしょうか。

くるみの木が生い繁っている真夏の今、濃緑の実を鈴なりにつけている。

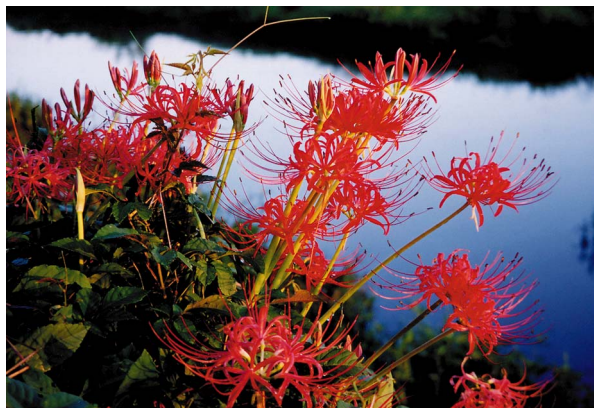
(平成12年8月11日掲載)

オオマツヨイグサ

オオマツヨイグサ(アカバナ科)。北アメリカ原産の帰化植物。1m50cm位になる。芳香がある。夜開性の花で色は黄色。夕方から夜にかけて花開く。

多摩川の川辺に今をさかりと咲いている。

(平成12年8月25日掲載)



秋の彼岸の頃咲くヒガンバナ



小型のひまわりを思わせるキクイモの花

曼珠沙華

川畔に咲くヒガンバナ（曼珠沙華）（ヒガンバナ科）。只今満開中！

秋の彼岸の頃になると必ず花を咲かせる。普通は燃えるような赤色で、背たけは50cm位。中国から渡来したという。

（平成12年9月22日掲載）

キクイモの花

秋の川辺をいろどるキクイモの花。花は大輪（8cm位）で黄色、背たけは2m位。根茎は食用になる。食糧難の時には、各地で栽培されたという。アメリカ大陸原産の帰化植物。今を盛りと咲いている（キク科）。

（平成12年9月29日掲載）



微かな芳香をはなつくずの花



秋を彩るコスモスの花

クズ

河原に繁るクズとその花（マメ科）。
河原のあちこちで草や木にからみつく生命力の強い草。根より葛粉がとれる。
花は紅紫色で下から順に咲いていく。つるは20m位はのびる。秋の七草の一つ。

（平成12年10月13日掲載）

コスモス

河原に咲くコスモス。メキシコ原産（キク科）。
“美しい”“調和”の意（ギリシャ語）のコスモスが名の由来とか。秋の空が好きらしく、花は上を向いて咲く。色は赤・白・ピンク・黄色等がある。花言葉は「乙女の心」。

（平成12年10月27日掲載）



小粒のスズメウリの実



秋には河原のどこでも見られるススキ

スズメウリ

多摩川の湿地で見つけたスズメウリの実（ウリ科）。

つる性の一年草。

果実が小さい（直径1cm）ので、雀が食べるようなウリだとして、この名がついたという。

（平成12年11月10日掲載）

ススキ

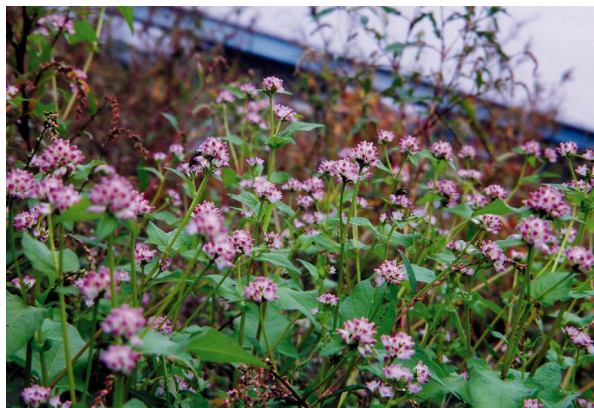
川原に生えるススキ（イネ科）。多年草。

秋の野原には必ず目につくススキ。高さは2mほど。

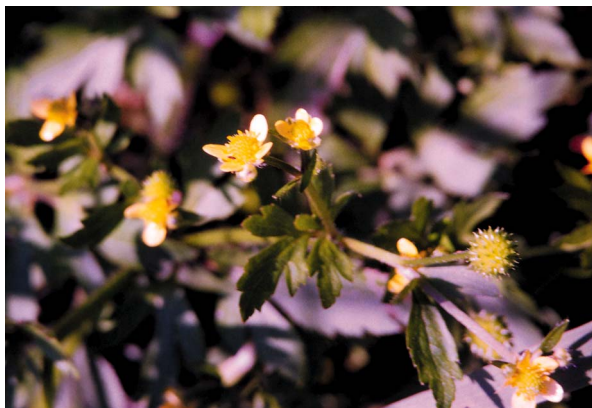
別名オバナ。

秋の七草のひとつでもある。

（平成12年11月17日掲載）



蕎麦の花に似ているミゾソバ



キツネノボタン

ミゾソバ

水辺に生えるミゾソバ（タデ科・一年草）。
高さは50cm～1m位。花の色は白・ピンク・赤がある。
ソバの花に似ていて溝に生えるのでこの名がついたとか。

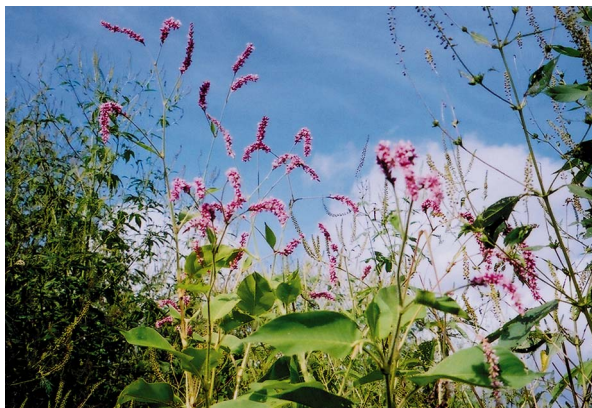
（平成12年12月15日掲載）



ツククサの群落



アカツメクサ



オオケタデ



アサガオ



アカバナ



ヨメナ



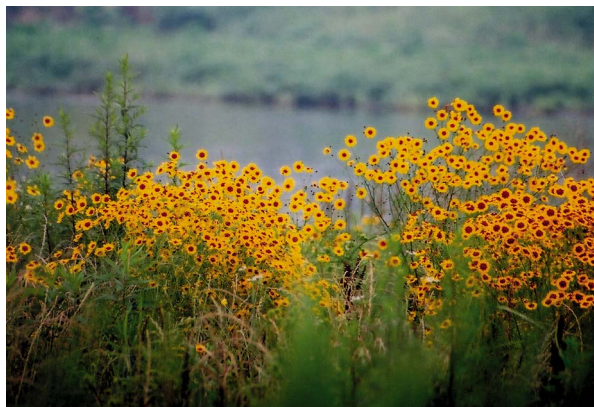
ヘクソカズラ



可憐なカワラナデシコ



キンエノコロ



ハルシャギク



雨後のキノコ



ノイバラの実



ノウサギを発見

●筆者紹介

吉田恵一（よしだ けいいち）

1939(昭和14)年 川崎市高津区に生まれる。

1962(昭和37)年 瓦販売の家業を継ぐ。

1985(昭和60)年 川崎西ロータリークラブに入会。

1994(平成6)年 有限会社丸銀瓦店代表取締役
に就任。

丸銀瓦店の創業をたどると明治の初めまでさかのぼる。高津区北見方一帯の土は粘土質に富み、「いぶし瓦」という黒い瓦の生産に最適だった。そこで窯を築き瓦生産を始めたのが吉田恵一氏の4代前の先祖。焼いた瓦を多摩川を渡って東京方面に出荷していたが、都市の膨張は瓦の需要に拍車をかけ、一時は生産が間に合わないほどだった。しかし時代と共に建築方法も変わり、今、瓦葺きの建築は減少している。瓦の利点は耐久性、防音・断熱効果があげられるが、何よりも日本の伝統的な建築美は見逃せない。神社仏閣を代表とするどっしりとした重厚な、美しい曲線を持つ屋根瓦は日本建築とともに世界に誇る遺産といっている。

瓦という一つ分野を通して、伝統的な日本美を継承していければうれしいと吉田氏は話している。



吉田氏が手がけた建築の一つ。「いぶし瓦」の風格と伝統美があますところなく発揮されている。

●ロータリークラブ

ロータリークラブとはアメリカを発祥とする社会奉仕団体で、世界各地に支部を持っている。川崎西ロータリークラブは1965（昭和40）年に創立、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕、青少年奉仕活動などを展開してきた。

毎週1回の例会と毎週発行される会報は会員相互の連携の要で、吉田恵一氏は2000年7月から2001年6月まで会報委員を担当した。1年にわたり多摩川の写真と文を掲載したが、それが本誌の「多摩川点景」になった。

吉田さんは「多摩川の近くで生まれ育ったのに、成人してからは川辺を散策する事も少なくなった。この会報のおかげで撮影のためにしげしげと河原に通って、改めて自然のすばらしさに感動した。野草、野鳥、小動物、魚の棲む多摩川、この丸ごとの自然を後々まで残していきたい」と、語る。



川崎西ロータリークラブ2000～2001年の会報委員会メンバー。前列右から二人目が吉田恵一氏。

墨の饗宴

水墨作品集



後列左より田淵洋子、八木裕子、鈴木賀代、大貫佳子、恒川光子、
前列左より倉上芙美子、戸張道也、戸張満江、岡崎喜美子、の各メンバー

大貫蘆汀

本名・大貫佳子（おおぬき よしこ）
急がず、休まず、そして力むことなく、ただ淡々と続けてきた水墨画です。

良き師にめぐまれ、そして、いつも明るく、たのしい同好の友人達に囲まれて、気がついてみれば、随分と永い年月を墨と親しんできたものです。

何故か心慌ただしい明けくれ、そして殺伐としたニュースの絶えることないこの社会、そんな中に身を置きながらも、硯に向って墨を磨る時の快い緊張感と、心のやすらぎは、私にとって、とても大切な時間に思われます。

白い紙に筆を下ろし、墨の濃淡で心の赴くままに描いていく時、何か自分自身と対話をしているような気持ちになるのです。

たとえ作品は拙くても、そこに漂う空気や風、そして光や影などが表現出来たらと筆を運びます。どこまでいっても奥の深い、精神性の高い墨画の世界だからこそ、心惹かれて止まないものがあります。

いつまでも続けていきたい、いや、続けていくであろう水墨画のお稽古です。



のぶどう



蔓梅もどき



野菊



マーガレット



イギリスの田舎家

岡崎富貴

本名・岡崎喜美子（おかざき きみこ）

水墨に興味を持ったのは、学生時代に書道の先生が、何気なく書の余白に春蘭を流れるように描きました。その素晴らしさに墨で描く絵に心惹かれました。

成長するにつけ、結婚、子育てにおわれ、忘れるともなく時が流れ、ある人の紹介で再び水墨に巡り会えることができました。

ものを描くときは、手先で描くとばかり思っておりましたが、心で描くことの大切さを知りました。

喜び哀しみの感情が絵にはっきり現れます。人を惹きつける絵は、その花が歌っており、躍っており、喜んでいます。

また風景画では、風の音、川の流れの音、肌に触れる季節の風。

そんな絵を描きたいと、余生の趣味として精進して参ります。



アメリカフヨウ



竹の子



しゃくなげ



山百合



フォックスフェイス

倉上艸羊

本名・倉上芙美子（くらかみ ふみこ）

水墨画を始めるきっかけは、老後のため何か身につけておきたいと思っていた折、お店のお客様が「女房が水墨画を習いに行くんだ」と言うちょっとした言葉からでした。“そうだ、水墨画は筆を使う、筆は柔らかい、年を取っても手先の運動になる。”という安直な気持ちから、これなら私にも出来そう、と横尾先生を紹介して頂き、お仲間に入れて頂きました。

週一回のお稽古でしたが、夜遅くまで仕事なので、正直言って少しきつかったのですが、始めたからには、頑張らなくてはと思いました。教室では先生は墨のつけ方、筆の使い方を私に嫌がらず根気よく教えて下さり、何も知らずに飛び込んだ私も何とか絵が描けるようになりました。又、教室の後に皆様とお茶を頂き、色々のお話が聞けるのが楽しみの一つになりました。

それなりに描けるようになった頃、スナックを始め、2年位、お休みをしてしまい残念でしたが、再度教室に行けるようになり、その時は先生はじめ皆様が快く受け入れて下さり、又絵が描けると思った時は、今度こそはと思い、中野からも、小金井からも、一生懸命通いました。やはり私は水墨画が好きだったのですね。

銀座セントラルで墨人社の墨画展を見て、“これはすごい。”と感動し、その中でも鈴木缶羊先生の筆に心を打たれ、思い切って先生の来館を受付の方に伺いましたところ、折良くお出でになら

れ、快く話を聞いて下さり、ちょうど教室を開くところという事で、早速平成元年11月より入会させて頂き、あれから12年になります。

まだまだ思うように描けなく、自分で、もどかしく思う時もありましたが、墨画展にも出品させて頂く機会もあり、雀を初めて50羽位描いて見ました。その時、審査会に出席させて頂き、「この雀は重くて飛べないよ。雀は5gしかないんだよ」と指摘され、なるほどと一人感心しました。

それから何百羽、雀を描いて少し飛べる雀が描けるようになり、出品させて頂きました。それがとても良い勉強になり、物を観察するようになりました。

水墨画による友人が出来て、共通の趣味をもつ事が出来たのが、最大の宝です。

これからも長く続く友人でありたいと思います。



落陽

ほおづき



とまどい



陽だまり



群翔

鈴木紅祥

本名・鈴木賀代（すずき しげよ）

「継続は力なり」という言葉がありますが、絵にあまり興味のない主人が近頃私の水墨画を見まして、「10年以上やっていれば、まあまあ見られる絵が描けるようになったね」と、ポツリとつぶやいたことがありました。

ロータリークラブを通して横尾靖先生との出会いから水墨画を教えて頂いたのが始まりで、現在は鈴木缶羊先生の教室へ通っています。

子供の頃から絵を描くのは好きでしたが、今は友人との語らいも楽しく、忙しい毎日の中で暇を作って通っています。

缶羊先生が常々申される言葉に、絵もただ描くのではなく、その絵から詩を感じられなければ本当の絵ではないと。

何事もその道に入って見なければわからないことです。最近俳句を始めましたが、やはり同じことを言われました。

年数が経っても絵を批評する目は肥えますが、頭で考えるように手は動かさず思ったようには描けません。気負わずに自然体で好きな絵を描いていきたいと思っています。

趣味が同じ方々とこれからも楽しく過ごせたら幸せです。



鉄線花



カナダ旅情



烏瓜



蒲



毛蟹

田淵翠羊

本名・田淵洋子（たぶち ようこ）
真珠の町、三重県鳥羽市に生まれる。

家事と家業の両立の生活でした。たまたま子供の稽古事で知り合いになった友人から、溝ノ口で墨絵教室があると教えられ、友人と一緒に世話になることになりました。

最初、「墨絵って何？」と聞き返すほど無知な私でしたが、知らず知らず年月が過ぎました。

墨絵の世界とは不思議な世界で、奥の深いところと思います。墨をする時に、心地よい香りが漂い、画仙紙に描き出すと、自分で描いたのに、まるで別人が描いたような素晴らしい作品になったり、時には真っ黒に塗りつぶして何を描いているのかわからないような時もあり、本当に不思議な世界と思います。

やがては、世に出て活躍が出来るかなと、とてつもない夢を描きながら水墨画を楽しんでいます。



ひょうたん



ボタン



鶏頭



いちご



岬の春

恒川輝草

本名・恒川光子（つねかわ みつこ）
幼い頃、父が似顔絵を描いてくれました。

戦後間もない我が家には、カメラが無くて事あるごとに、父はその時の模様を絵にしたためてくれました。

一枚の紙の上に物体や風景を見たまま、思うがままに表現する事は何て素晴らしい事かと、子供ながらに感動を覚えていました。

その影響からでしょうか、子育ても終わった頃、水墨画の世界に入り、未だ悪戦苦闘の毎日です。

水と墨だけでの表現は奥の深いものです。それだけに一枚の作品が上がった時は、言い表せない感動を覚えます。

今、アロマセラピーの時代……、日本古来のこの墨の匂いは心身ともに落ち着かせてくれるすてきな世界だと、思っています。

飛瀑





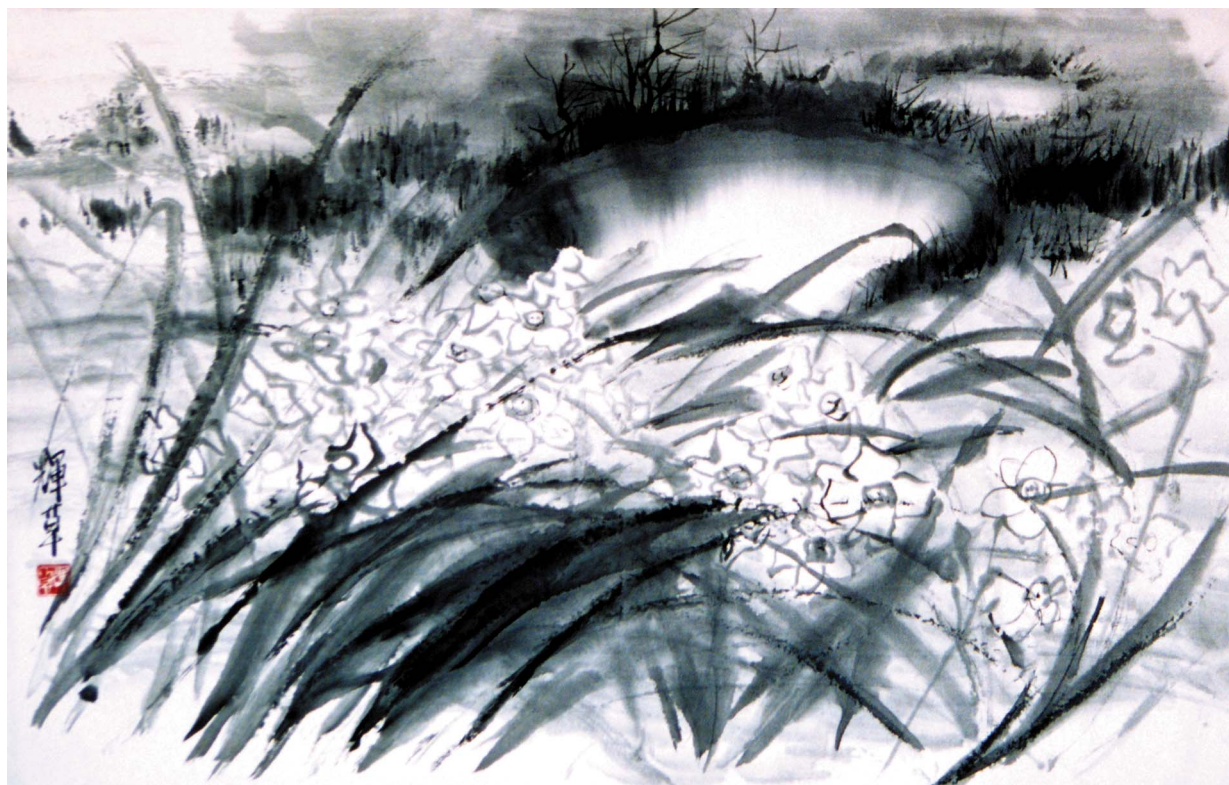
ハツ手



浅春



杷榆



薰風

戸張桂華

本名・戸張満江（とばり みつえ）

道端に咲いているとかく見過ごしがちな草花などに、気をつけて良く見るようになりました。

四季を通じていろいろな花や植物、風景などを墨画で描きますが、濃淡で色を感じさせなければなりません。

私は墨の美しさが好きです。構図とか線が非常にむずかしく、その時々的心情を心に描きながら表現します。

画に詩情を感じさせるように心がけています。



二ヶ領用水



芙蓉



街角



壺とフリージア



ぶどう



木彫



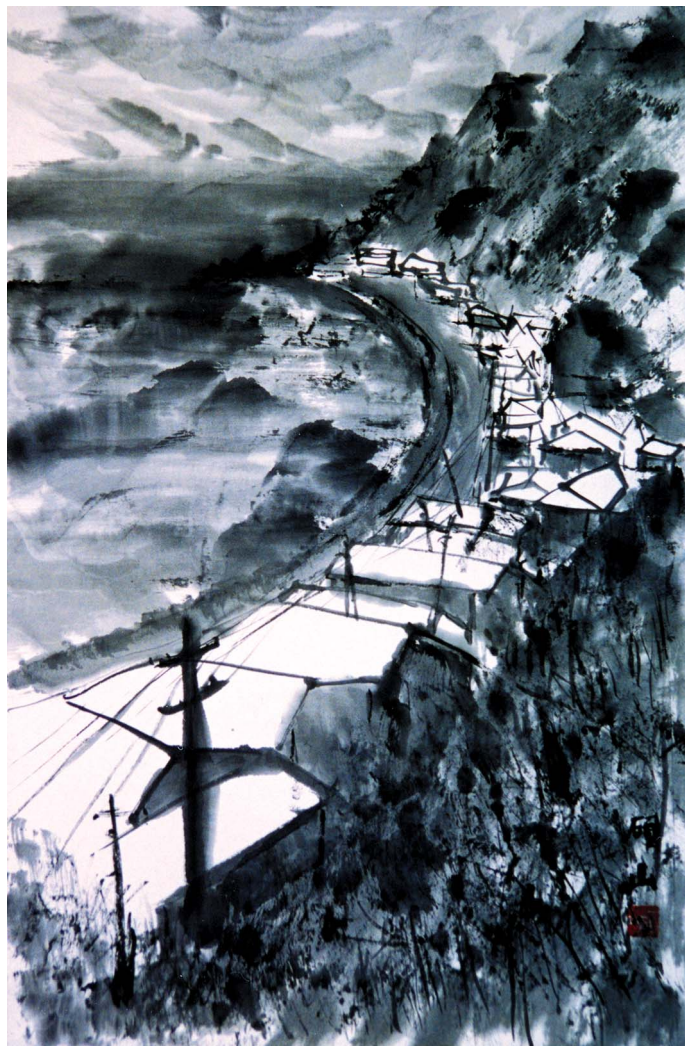
瀧聲

戸張碩山

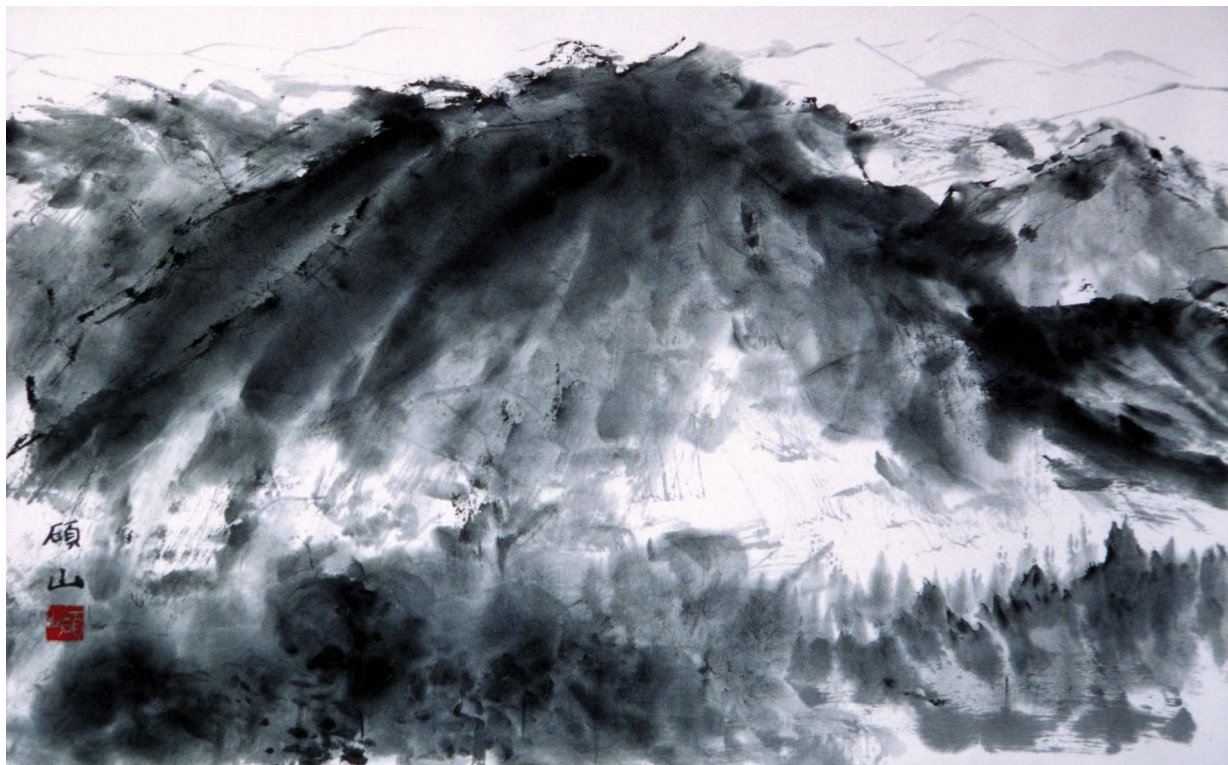
本名・戸張道也（とばり みちや）

光芒百年 我思不到
百年の光も我が思ひはとどかない

求事万象 唯怕了夢
万象を求めるもただ夢と了るを
おそれる



冬の海



響き



湯上がり



再会



パンジー



ほほえみ

八木紫翠

本名・八木裕子（やぎ ゆうこ）

東京に生まれる。

私が水墨画を始めたのは5年ほど前のことです。主人に先立たれ、張り合いのない毎日を何となく過ごしていた私を心配してくれた友人の勧めでした。

もともと美術品や絵画の鑑賞は好きでしたが、絵心もなく、毛筆など何十年も手にしていなかったので、自分には絶対無理だとお断りしていました。

以前から友人を通して旅行や食事、絵画の展覧会などに誘っていただいていたので、お稽古を口実に毎月1回皆さんにお会いできるという楽しみも魅力となり、缶羊先生の教室にお世話になることにいたしました。

月1回のお稽古以外には、なかなか練習できず、まだまだ皆様に認められるまでには至りませんが、素晴らしい仲間と先生に励まされながら、今まで続けることができております。

今後も自分の満足のいく作品を創作できるよう頑張っていきたいと思っております。



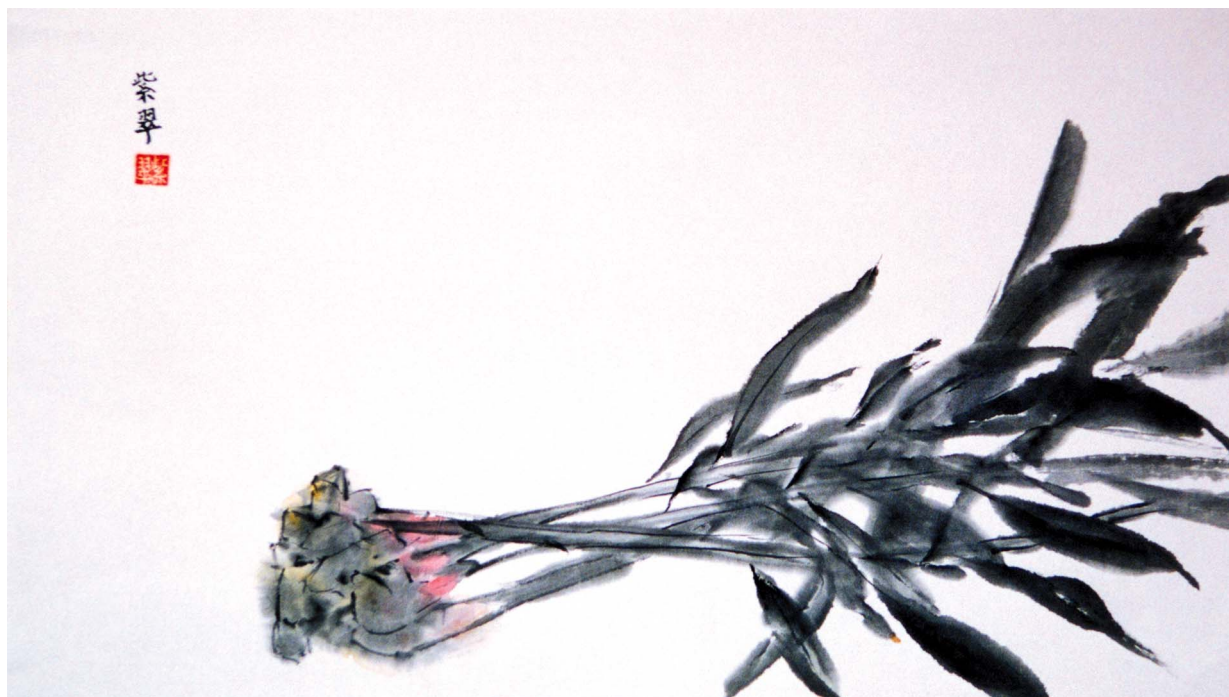
古代米



富良野



椿



しょうが

墨 象

ミニ水墨画廊「墨象」

私どもの新婚時に建てた建物が庭先にあります。当初7坪弱の平屋で、一階を増築し、二階も増築しました。両親と同居後10年間は戸張会計事務所となりました。今回書庫を作りましたので、水墨グループの作品を中心に展示する「ミニ画廊」に改造しました。

メンバーの作品、下村為山、内山雨海、鈴木缶羊等諸先生の作品、また、洋画家・横尾靖先生、彫刻家で芸術院会員・長江録弥先生の作品を展示します。



読書断片辞書

一言でも可言あれば良し。自分の言葉も加える。

公認会計士
戸張道也

読書断片辞書

日付 01 / 06 / 17

著者名 柳 美里 著者五十音 ゆ

書籍名 魚の見た夢 出版社 新潮社 出版年月日 00 / 10 / 30

テーマ 花

分野 文学

言葉 花は生殖器なのだ。
葬式というものは、いつだって死者のためではなく、生き残った者のために行われる。
生き残った者は死者を忘却の淵に沈め、生きつづけなければならない。
「お花のない埋葬は悲しいものです。」フランスの花屋の広告。

自分の言葉 生と死の交代ではなく、生のまま死の舞台が続く。

読書断片辞書

日付 01 / 06 / 18

著者名 山形優子 著者五十音 や

書籍名 日経流通 情報テラス 出版社 日経

テーマ 花 テーマ五十音 は

分野 雑記

言葉 チェルシーフラワーショー英王立園芸協会主催。
個人住宅の庭に多いアイリスなど「古き良き時代」を象徴する親しみやすい花の起用。
バラのリバイバル。
デザイナー、アリソン・アーマーウィルソン。バラ色の庭をつくる。
デザイナー、ポールス・スートン。60年代の英一般家庭の典型的な庭を再現。観衆を過去に連れ戻した。
舞台装置はオランダの榆の木、物干しに60年代ファッションの洗濯物、ガレージにミニクーペ。
ミニマニズム（無駄なものを一切省く）への反動。

自分の言葉 さて、これが日本でできるか。さしあたり京都庭園を100種類、箱庭に作って展示する。
3000坪のバラ園。200台の駐車場。ビアガーデン・レストラン・喫茶店。
バラ園は農地に認定されるようにする。
自家製ビール・ワイン・ハム・ベーコンも。

読書断片辞書

日付 01 / 06 / 19

著者名 上野恵子 著者五十音 う

書籍名 日本流通新聞 マーケティング 出版社 日経 出版年月日 01 / 06 / 19

テーマ ハートで勝負 How To 商い 商売の基本 テーマ五十音 は

分野 経営

言葉 「サービスは注文されたものを如何に早く出すかではない。お客様がドアをあけて入ってきてから出て行くまでの間に、どのくらい気配りできるかで決まる。」
 疲れているなど感じる人には、胃にもたれないあっさり味の料理や酢の物など1~2品出したあとで様子を見る。
 「いらっしゃいませ」の後の「ああ」と応じるその一言で客の状況を見分けられなければならない。
 数ヶ月来店しなくても一人一人の好みの味を記憶に残している。
 調理一筋の人生を歩んでいる酔心（東京・有楽町）板前佐々木宏三さん。

自分の言葉 技で生きる。
 お客と調理人は対面している。
 お客の数が多い場合は、客席の雰囲気配りを怠らない。
 お客様と食べ物、飲み物。お客様とウェイトレス。

読書断片辞書

日付 01 / 06 / 30

著者名 ジャネット・ロウ 著者五十音 じ

書籍名 ウォーレン・パフェット 出版社 ダイヤモンド社 出版年月日 01 / 06 / 30

テーマ お金 テーマ五十音 お

分野 雑記

言葉 「パフェット君、お金があったところで、われわれはたいした意味はない。われわれは変わらないよ。せいぜい嫁さんの暮らし向きがよくなるだけだ。」グレアム。
「せっかちにならずに健全な投資を追求すれば、少なくとも貧乏になることはありません。」パフェット。
「私は帳簿には記載されない資産や、目に見えない資産に着目しています。」パフェット。
「大学は難しくて、役にたたないことを教えている。ビジネススクール（大学の専門課程）は単純明快な行動よりも複雑な行動のほうを高く評価する。」パフェット。
「もし市場が常に効率的だったら、私は今ごろ街角に座り込んで物乞いをしているはずです。」
「株価の変動に着目して値幅取りをするつもりはありません。」
「株式市場は短期的には人気投票の場にほかなりません。しかし長期的には、企業の真の価値を測る計量器の役目を果たしてくれるのです。」
「投資してみたいと思う企業が見つかったら、株価の水準はあまり問題になりません。」

自分の言葉 「金持ち父さん貧乏父さん」の本が近頃ベストセラー。
企業の利益創設力を基本に、安全性・成長力・物語性を基本に企業価値を計算する方法を考えました。
（ロータス社データベースソフト「アプローチ」）データを情報に変えて活用する為の工夫です。

読書断片辞書

日付 01 / 06 / 30

著者名 ジャネット・ロウ 著者五十音 じ

書籍名 ウォーレン・パフェット 出版社 ダイヤモンド社 出版年月日 01 / 06 / 30

テーマ チャンス テーマ五十音 ち

分野 雑記

言葉 相場がかなり上昇しているときは過小評価されている株価はほとんどなく、相場が冷え込んでいるときは割安な株がごろごろしている。価格とは、何かを買うときに支払うもの。価値とは、何かを買うときに手にいれるものです。企業の内在価値を正確にはじき出す公式は、この世には存在しません。これから投資しようとする企業について知ることがまず大事です。底値で買わなければならないということはありません。その企業が持っていると自分が考える価値よりも株価が安いこと、そして正直で有能な人々によって経営されていることがポイントです。

すでに人気化した株を買っても、高い投資利回りを残すことはできません。

自分の言葉 企業価値の基本算式（私がとりあえず考えたもので、実証され、客観化されたものではありません）

期待市場価格 = 市場価格 * 理論利回り

計算企業価値 = [1株当りキャッシュフロー * (1 + 成長力) / 利回り] * 調整率

理論PER = 1 / (利回り / 100) 1株当りキャッシュフロー = 1株当り利益 +

1株当り償却費 利回り = 金利 + リスクプレミアム - 成長率 リスク

プレミアムは5年間の1株当り利益率（PER）の平均値、標準偏差値等を参照し決定する。

成長率は3年間の売上高、経常利益の伸び率を参照し決定する。

調整率は格付指標、市場流動性指標、配当性向、IR指標等で決定する。

期待市場価格と計算企業価値から企業価値を決定し投資判断の基礎とする。

金利が低いと企業価値は低く算出される。リスクプレミアムが高いと企業価値は低く算出される。成長率が高いと企業価値は高く算出される。

市場価格と企業価値の差異が50%以上ある場合購入希望に加える。

市場価格が企業価値に接近した場合売却希望に加える。

読書断片辞書

日付 01 / 07 / 03

著者名 池内 了 著者五十音 い

書籍名 天文学と文学のあいだ 出版社 廣済堂出版 出版年月日 01 / 07 / 10

テーマ 春宵

分野 文学

言葉 蘇 東坡

「春夜」

春宵一刻直千金

花有清香月有陰

歌管樓台声細細

鞦韆院落夜沈沈

ブランコ = ふらんど

ふらんどや桜の花をもちながら 一茶

自分の言葉 「春夜」

春の今宵はすばらしい

花の香りにおぼろ月

三味に伴う声嫋嫋

ふけゆく夜にわれひとり

訳 戸張碩山

読書断片辞書

日付 01 / 07 / 06

著者名 角田光代 著者五十音 か

書籍名 アサヒカメラ 出版社 朝日新聞 出版年月日 01 / 07 / 06

テーマ 場所 向き合うに足る場所としての世界 「写真集」左内正史「message」平凡社の紹介

分野 文学

言葉 かつて私には別宅があった。たとえばそれは橋のたもと、たとえばそれはたんぼの片隅、たとえばそれは町なかの、長い階段の12段目で、ここは別宅と決めた場所に私は、こっそり何かのしるしを残す。

この一連の写真を見ていると、過去は現在をすりぬけて未来へとつながっている。左内正史に切り取られた光景を見ていると、肯定、という言葉を感じる。この写真家は、そこにあるものを受け入れ、起きたすべてのできごとを肯定しているように思える。そこから見えるちっぽけな世界を愛する。

自分の言葉 私のちっぽけな世界。茶ノ木畑の塊。桑の木の赤い実。プンと香るトマトの匂い。小さな野原のグミの赤い実。松林の下草。落ちた山栗の実。カラタチの木のトゲと赤い実の匂い。

読書断片辞書

日付 01 / 08 / 07

著者名 村上和雄 著者五十音 む

書籍名 生命の暗号(2) 出版社 サンマーク出版 出版年月日 01 / 07 / 01

テーマ DNA あなたの「思い」が遺伝子を変える 筑波大学名誉教授 遺伝子研究

テーマ五十音 で 分野 思想

言葉 人のために生きると遺伝子がONになる。

遺伝子のなかには利己的な遺伝子もあるが、利他的な遺伝子もある。これは希望的観測ではなく学問的真実である。自分だけの「得」を図るのは、「得」への最短距離のようにみえて、じつはそうでない。それで得る「得」は短絡的で浅薄なものでしかない。人間は本来、利他的行為をうれしく楽しく感じるようにできている。もともと人間は共生的環境のなかで生きてきた。現在の競争的環境などは近代以降の2～3百年のことに過ぎない。細胞が集まって、より高度な秩序をもつ器官や臓器を形成する。細胞は臓器に囲みこまれながら、臓器の形成やはたらきに共同的に振舞っている。この見事な仕組みは遺伝子のなかには書きこまれている。

人のため、社会のために研究するのは決して滅私ではなく、個人の喜びや得、生きがい、やりがいに通じている。私の社会に役立つ利他的研究は「不老学」の研究と「コメ」「イネ」の研究です。不老学の骨格は、いかに若々しく、健やかに、美しく、生きがいをもって年を重ねていくか、輝いて生き、見事に死ぬかです。

自分の言葉 仏教の「自利利他」、ロータリークラブの「超我の奉仕」の思想は遺伝子(DNA)に含まれているといえる。この精神が企業を支え、個人の心身を健康にする。企業・組織にも利他的なDNAがあればこの遺伝子を企業・組織に埋め込み次世代につなげることができる。世の役に立つように、喜びを感じて、健康に生きることを願う人々にロータリークラブは手助けをしてくれる組織でありうる。

「人間とは、その人が一日中考えていることであり、人の一生とは、その人が人生をいかに考えたか、ということである。」

マーフィーの法則として引用されているが、エマソンとマルクス・アウレリウスの言葉であるという。

読書断片辞書

日付 01 / 08 / 10

著者名 インゴ・レンチュラー他 著者五十音 い

書籍名 美を脳から考える 出版社 新曜社 出版年月日 00 / 06 / 15

テーマ 美を脳から考える 芸術への生物学的探検 監訳者野口薫 テーマ五十音 び

分野 思想

言葉 「美しさ」がどのように脳内で情報処理され身体的に創出されるのか。
「事物の美はそれを想う心に宿る」デビッド・ヒューム。
ダンス、うつろいゆく芸術形式 - 行動としての美。
美的であるということが手に触れることのできるモノのみの性質ではない。
ダンスは結果として生ずるモノではなく、行為を強調している。
うつろいゆく芸術形式であるダンスは、繰り返し・規則性・不変性などの諸性質によって外面化への方向性を示している。
手でつかむことができる芸術作品から、作品を生み出す行為へと関心が移行している。
空間・時間構造。ダンスすることは変形することを意味する。
創造者でありメッセージの運び手であると同時に受容者でもある運動の主体。「美的行動」ダンスの時間・空間構造は創造され、維持され、変形される。このバリエーションが美的な行動の根本的な要件である。
スリル、喜び、興奮、新奇さ、個性の呈示などがダンスに付与される。

自分の言葉 ソシアルダンスの場合、音楽のテンポで時間の流れに沿って空間を移動して行く。男性が動きを創設し、女性に対応してうつろう。時間・空間構造は創造され、維持され、変形される。

読書断片辞書

日付 01 / 08 / 15

著者名 鳥越 碧 著者五十音 と

書籍名 想い草 出版社 講談社 出版年月日 01 / 04 / 20

テーマ 貴船 歳月 露草 舞塚 墨香 昔語り 高山寺 錦木 名残り桜

分野 文学

言葉 世間など遠くに置いて気促を押し通してきたが、世間同様に歳月もまた、千津を冷やかに突き放していた。黙って老いを刻みつけてきたのだから。(歳月)

道の辺の尾花が下の思い草 今さらさらに何をか思はむ
万葉集 読み人知らず

陰雪 時の残酷性とぬくもりをいとおしんで書いた短編。

自分の言葉 歳月と女の一生を老年に近づいたときにとらえ、その諦めと肯定と未来への充実の予感が、静謐な息遣いで書かれている。

読書断片辞書

日付 01 / 08 / 24

著者名 前 登志夫 著者五十音 ま

書籍名 明るい寂寥 出版社 岩波書店 出版年月日 00 / 08 / 25

テーマ 歌の思想

分野 文学

言葉 「詩的感動を能うかぎり判然と通常の感動に対立させることが重要。区別はかなり施しがたい。事実のうちには実現されていない。個人の特殊な興味と感銘は、かの宇宙の感覚と必ず融合せずにはいない。」 ポール・ヴァレリィ

「われわれは名を知って物を知らぬかたわになった」 森 鷗外

「あしびきの 山河の瀬の響るなべに 弓月が嶽に 雲立ち渡る」 柿本人麻呂

小市民的な常識に安住し、ひたすら技巧を磨き、事物とたわむれる孜孜たるさまを見よ。彼らには大いなる没落の運命がない。その苦痛もない。観察する理性という近代の信仰をもち、合理主義という新しい神を信仰している。

わたしの人間としてのその内容を、いささかでも上回る観念は、それ自体どんなに魅力的であっても、無力にはね返される。生の流れから遊離したスマートな理念は少しも通用しない。山村生活。

この「明るき寂寥」は、自然の孕んでいる宇宙的なエネルギーのもたらす稀なる恩寵のようにおもえる。 あとがき

八月の灼ける岩根の汗拭い絶倫といふ明るき寂寥 季刊「ヤママユ」第三号

自分の言葉 その道の諸先生方各位に対する批判とも考えられる。著者は奈良県吉野郡下市町に生まれ、現在もその山里に住む。歌人。「樹下集」詩歌文学館賞。

読書断片辞書

日付 01 / 09 / 08

著者名 池田遥邨 著者五十音 い

書籍名 風に吹かれて山頭火 出版社 講談社 出版年月日 96 / 04 / 25

テーマ 画集「放蕩と行乞の旅に魅せられて」個展山頭火シリーズ テーマ五十音 じ

分野 美学

言葉 うしろ姿のしぐれてゆくか

どうしようもないわたしが歩いている

ふとめざめたらなみだがこぼれてゐた

風吹いて一文もない

鉄鉢の中へも霰

ころりと寝ころべば空

分け入っても分け入っても青い山

種田山頭火 本名 種田正一 1882年山口県生まれ。早稲田大学中退。荻原井泉水に師事。「層雲」に出句、自由律俳句を作る。

句と酒と旅の人生を送る。1940年松山にて死去、58才。

自分の言葉 「大種田」といわれた酒造家に生まれ、妻子を捨て放浪と乞食と酒の生活の中で独特の自由律俳句を残した。

ほこりまみれのバスの通る草道を歩いて、ふとクリーム空き瓶を拾いじっとそれを観るという光景を別の本で読んだが妖しく記憶に残っている。

読書断片辞書

日付 01 / 10 / 27

著者名 サトウ・ハチロー 著者五十音 さ

書籍名 爪邑ノ雨 出版社 ㈱R出版 出版年月日 54 / 10 / 16

テーマ 処女詩集

分野 文学

言葉 亡き母よ

足にくづれる白い砂
 糸りあしに
 しみる松の匂い

ああ
 風は吹く 風は吹く
 風ぞ吹く

子守歌は
 二つとなきものぞ
 亡き母よ

自分の言葉 子守歌をうたう母と子の一瞬は消えて再び現れることはない。
 ボクは詩人でありたいのです。この叙情詩集によって、ボクのことをよく知ってくだ
 されば、このうえない幸いです。(サトウ・ハチロー)
 昭和22年11月処女詩集の再刊。

読書断片辞書

日付 01 / 10 / 31

著者名 飯島晴子 著者五十音 い

書籍名 飯島晴子読本 出版社 富士見書房 出版年月日 01 / 10 / 30

テーマ 自句自解・俳論抄

分野 文学

言葉 泉の底に一本の匙夏了る

歯をこまかく土竜死ぬわれ夏帽子

寒晴れやあはれ舞妓の背の高さ

曼珠沙華（随筆）

曼珠沙華 爽涼のなかに最後の暑さがなお一すじ残っている野に、突然のように赤い花を群がって立るので、季節の変わり目をあざやかに実感させてくれる花である。

曼珠沙華ひそかに息をととのふる 橋本多佳子

流れ急どかっと曼珠沙華捨つる 橋本多佳子（佳人で有名であった女流俳人）

霧雨や下は雫の曼珠沙華 土芳（芭蕉の時代の人）

秋風やむしりたがりし赤い花 一茶
（晩年に得た娘さとを、かぞえ年二歳で死なせて、墓詣して詠んだ句）

曼珠沙華咲いてここがわたしの寝るところ 山頭火

自分の言葉 「作品は毅然として果敢」と編集後記にある。

ロータリークラブからの贈り物

結婚42年目を迎えて

昭和34年9月30日に警視庁弥生会館で結婚式を挙げてから42年が過ぎました。平凡な月日で一男二女をもうけ、子供たちは人並みに成人し、それぞれの人生をたどるようになりました。皆様方同様にわが国の経済発展とともに、私の事務所もようやく諸事整うようになったと思った今、人生の坂道にさしかかりました。これからこの坂道をゆっくり二人で下ることになるわけです。

さて、最近「多摩川のほほえみ」という小著をまとめることにしました。吉田恵一さんの写真スケッチ「多摩川点景」、大貫蘆汀（大貫会員夫人）、恒川輝草（恒川会員夫人）、鈴木紅祥（鈴木清次会員夫人）、戸張桂華（家内）、戸張碩山（私）ほかのメンバーの水墨画作品等で構成する予定です。水墨画グループは横尾靖元会員会長主催「日本墨象会」の教え子で構成され、20年以上の経験を積み、いまは鈴木缶羊墨画研究所で学んでいます。

川崎西クラブに入会させて頂き23年を経ましたが、これはそのロータリークラブからの贈りものです。先年、「久本こすもすホール」という小さなビルを建て、毎週木曜日午後7時から、気功法同好会を続けていますが、これも20年続く横尾先生から引き継いだアスレチッククラブというロータリーからのもうひとつの贈り物です。今は家内が

指導役を務めています。

このように結婚生活の半分は川崎西ロータリークラブと共に過ごさせて頂きました。故田沢竜吉ご夫妻をはじめ、皆様方とともに、ヨーロッパ旅行、鎌倉、箱根への散策、観劇会等家内と共に参加させて頂き私も夫婦の貴重な思い出となっております。ロータリークラブは、日本社会では珍しく、夫婦で参加できる行事が用意され、家内も終生の友をロータリークラブの活動を通して得ることができました。

3年前クラブ会長をお引き受けした折は、斎藤尚雄幹事、川辺裕副会長、渡辺三男SSAはじめ、理事・委員長・会員皆様に大変お世話になりました。「なごみ」をテーマに華やかに同好会主催の夜会、詩吟同好会、ダンス同好会等で出発しました。また女性卓話者（横浜あざみクラブ等）のエネルギーで例会を盛り上げようと考え実行しましたが、武運拙く（？）途中脳梗塞に倒れ、約2ヶ月川辺裕副会長に代行していただきました。その後は杖とりハビリとともにロータリークラブで3、4、5、6月があったと言う間に過ぎ、小泉義治会長に引き継がれました。5月には嶋崎会員、中村憲一委員長他多数の会員・会員夫人のご奉仕で金美麗先生の講演会が横浜あざみクラブ和田会員のデザインによる舞台いっぱいのひまわりを背景に満員の盛況でノクティビル市民館で開催されました（卑怯にもびつこと杖を理由に私はご挨拶参加を辞退させて頂きましたが）。渡辺SSAにお世話頂いて

テーブル輪の花の例会もあつと言う間に思い出の彼方に過ぎ去りました。

さてロータリーのお話が長くなりましたが、結婚の端緒は、「君はあまりに色気がなさ過ぎる」という職場の先輩（仲人をしていただきました。）のご注意で、先輩の近くに住む家内を紹介され、5月晴れのある日、先輩宅でお見合をし、その日にお付き合いを始めることに決め、その年の9月30日結婚の運びとなりました。

お見合いの時間は昼の太陽が真上から夕日になるまで、なにをしゃべったか、覚えておりませんし、家内がどんな人が皆目わかりませんでした。髪の高い人だな、目が大きいな、という全く子供のような印象しか覚えておりません。家内との対話が至極自然になったのは、ごく近來のような気がします。気功法のおかげとすれば、ここ10年、20年かもしれません。

美化して言えば「野菊の如き君なりき」（伊藤左千夫）が「たんぼぼのような君になった」ということでしょうか。体型のことではありませんので、念のため。

川田会報委員長の求めに応じて、川崎西ロータリークラブ、平成13年9月28日（金）の会報に記載された記事から転載しました。

この小著「多摩川のほほえみ」も、西ロータリークラブの（株）嶋崎文教堂社長のご紹介で知り合った（有）田園都市出版・安達智恵子さんの企画で、これもロータリークラブからの三つ目の贈り物です。なお印刷は西ロータリークラブの会員（株）ダイトーの遠藤社長のお世話になりました。

雨打つや かたふき咲ける 姫はちす

むらさきに あやめ濡らさむ 午後の雨

老いたれば 花は桔梗の 夢ひとつ

残紅集 碩山

多摩川の歌三首

多摩川の 砂にたんぼぼ 咲くころは
われにもおもふ ひとのあれかし

若山牧水

みなかみの 山うすがすみ 多摩川の
浅瀬の鮎子 まだのぼり来ず

若山牧水

多摩川の 清く冷たく やはらかき
水のこころを 誰に語らむ

岡本かの子

戸張 公認会計士 事務所 税 理 士

税務、コンピューター会計
経営相談、会社設立税務
会計監査、贈与・相続税務



〒213・0002 川崎市高津区二子5・1・15

TEL (044) 833・4361(代) FAX (044) 844・6035

戸張計算センター

- パソコン・ワープロ利用技術
- 経営計画 ● 資金計画 ● 財務計画
- 経営相談 ● 記帳受託 ● 開発教育

〒213・0002 川崎市高津区二子5・1・15

TEL (044) 833・4361(代) FAX (044) 844・6035

スパゲティーとドリアの店「ファーム」



営業時間 11:00 ~ 22:00

定休日 水曜日

●各種パーティー・ご宴会のご予約を承ります。



川崎市高津区久本2-2-1 こすもすビル1F
洗足学園手前交差点角

☎ 044 - 865 - 8118

こすもすホール

各種教室、サークル活動、会議、展示などにご利用いただけます。

現在の利用スケジュール

	午 前 9:00 ~ 12:00	午 後 13:00 ~ 17:00	夜 18:00 ~ 21:00
月	幼児教室 「よいこのチックタック教室」		
火	幼児教室 「よいこのチックタック教室」	クラシックバレエ 「アン・バレエ」	クラシックバレエ 「アン・バレエ」
水	三幸リトミック	才能教育 バイオリン教室	社交ダンス同好会
木	国立音楽院 幼児リトミック	公文 ペン習字教室	アスレチック同好会
金	幼児教室 「よいこのチックタック教室」	クラシックバレエ 「アン・バレエ」	クラシックバレエ 「アン・バレエ」
土	ピアノレッスン		
日	クラシックバレエ 「アン・バレエ」	クラシックバレエ 「アン・バレエ」	

●住所 川崎市高津区久本2-2-1 洗足学園手前交差点角

●お申込は戸張会計事務所 ☎044・833・4361

多摩川のほほえみ

(CD-ROM / Adobe® Acrobat®)

2002 年2月8日発行

著 者 戸張道也

編 集 戸張会計事務所

〒213・0002 川崎市高津区二子5・1・15

TEL 044・833・4361(代)

FAX 044・844・6035

発行者 安達智恵子

発行所 (有)田園都市出版

〒216・0001 川崎市宮前区野川4612 ベルウッド野川401

TEL 044・798・7248

©2002 Michiya Tobari Printed in Japan